

ほりえ 眞報43号



顔と各議場の部分を整備され、8月中引渡し受。11月竣工式を現してきた雲南市の顔となる新市役所。5階部分の部屋が整備され、8月中引渡し受。11月竣工式

6月議会 7千5百万円余を補正して閉会 たたらば壱番地トイレ関連整備に1千3百50万円

6月8日から開催された6月定例会に平成26年度予算の専決処分承認など8件、27年度一般会計補正予算など議案11件等が提案され全議案を承認、可決して閉会しました。

中で今年8月中旬に完成・引渡しされる新市役所について契約変更が報告されました。5百万円余の変更増額。庁舎内階段の子供用手摺りと庁舎外構の擁壁工事が追加され建築主体工事の総額が2億5千万円余となりました。

また予て要望していたたたらば壱番地のトイレが国交省によって増設されます。渡り廊下の屋根整備に市予算が計上されました。完成は今年度中の予定。その他、諮問・人権擁護委員の推薦について藤原洋子氏（木次町）を全会一致で推薦同意。

雲南市立病院入札できず 再入札なるべく早く

入札予定者の辞退により入札が不調に終わった市立病院について7月8日・22日両日の教員委員会で総事業費の変更額と経過が説明されました。実施設計8億1千6百万円から11億4千4百万円の増額で総額97億6千万円に。主な理由は労務資材単価の大幅増額。建築主体工事・電気設備工事・機械設備工事・解体撤去工事に分けて入札されます。今後の入札等日程は現在協議中。

木次駅前商業施設継続は

4月に閉店した木次駅前商業施設は全館が6月1日から雲南市の管理になっています。7月21日産建委員会では当該施設を商業施設として再オープンするためには家主として施設整備が必要。とのこと、建物本体修繕に約2億4千万円、空調・駐車場設備に1億5千万円、その他調査設計、県補助金の市負担分等など概算で総額4億4千万余（今後精査）が必要との説明が行なわれました。事業者が決定すれば来春のオープンを目指すとのこと。

吉田町 田部氏紀徳碑

吉田生涯学習交流館の横に大きな石碑が立っている。碑銘に「田部氏紀徳碑」とある。昭和十二年、吉田小学校の新築に併せ土地や良質木材など提供いただいたことや明治時代、私費で田部学校を開設し教育に情熱を注がれた、田部氏に感謝の意を表すため村民の総意で建立が決定された。村議会で3名の委員を選任し石運びを開始。慎重に調査の結果、碑石は飯石川、台石は須佐川、礎石は吉田川から夫々選択採石。石の運搬を加茂町・常松大三郎氏に依頼。撰文は東京帝国大学教授谷口廻爛先生。碑文は東大総長、長與又郎先生、書は同東大教授石田武洲先生と日本を代表する先生に依頼された。建設は簸川郡上津村嘉村和氏と今市町の矢田鉄三郎氏。石工は松江市から福本石工ほか数人の徒弟で彫刻を開始。



ついに昭和十四年四月吉日、二十二代長右衛門茂明氏、田部朋之氏を主賓に郡内団体長初め村内外から二千人が参列して盛大に除幕式が行なわれた。碑文に詳しく記されているが田部氏は終始一貫、教育第一で物心両面から多大な貢献をされた。紀徳碑を改めて見直し、田部家及び先人各位の努力に感謝し今後の学校をめぐる課題に適切に対応したいものである。（資料：吉田学校教育百年史から抜粋）。

高速バス松江・広島線 たたらば壱番地に3便

松江〜広島間の時間短縮を理由に高速道路上のバス停の大幅削減が示され「たたらば壱番地」も対象になり心配されていました。7月31日改正で朝・昼・夕の一日往復3便が確保されることになりました。一日あたりの乗降客の減少が乗り入れ廃止提案の要件でした。多くの皆様のご利用をお願いいたします。木次・加茂バス停は現状の通り停車します。

編集後記 月日の経つのは早い。3月議会報告を失礼しました。市役所は予定通り進んでいます。市立病院は工事費の大幅な動きの影響で不調となり現在調整中、木次駅前チェリバも閉店から早や3ヶ月が経過。清嵐荘改築計画も動いているのでしょうか。